

津軽の海

(昭和九年寮歌)

星勇君 作歌

白石祐義君 作曲

一

津軽の海渦巻ける奥
オホツクの寒潮咆哮えて
雄健き名ぞ蝦夷が島根に
年古りし恵迪の寮
旅寝とな言ひし三年を
揺籃の高夢を追ふなり

三

清明の水に浮べる
宵月の影はさやけし
酒觴をめぐらしかさね
熊熊の声聞くもすべなし
たぎりゆく若き血潮に
限りなき感激をしたふ

五

恵迪の館を訪ひし
竜田姫佐保神三たび
若人の生命捧げし
想ひ出の自由の宴遊
永劫に若き一日の
夢とせむ榆鐘の調べを

二

寂寥の歩行はこびて
茂みさぶる森に仰臥し
先人の詩になぞらへ
陳腐なる歌を恥ぢらふ
ただ仰げ自然の姿
そは深き黙示をきさむ

四

六十にも齢うつろひ
集ひたる寮友は兄弟
伝統の永遠の記念と
感激の寮史も成りぬ
情懷深く唯魂が
魂と結び輝く

六

黎明は曠野の際涯
雄叫びと共に来れり
満蒙の長夜の闇も
晴れんとす起てよ寮友
青春の象牙の塔を
いざ出でむ時は到れり

七

北溟の自治の牙城を
蒼穹高く巢立つ寮友
澆季の世救はんは汝れ
済世の烽火あぐべし
忘れ得ぬ恵迪の歌
高唱ひゆけ正義の大道を